製造業向け収益向上のための原価管理システム構築【オンラインライブ】(4124246)

「儲かる工場」の実現に向けた仕組み、仕掛けを紹介します。一番大事なことは正しい考え方・方法と手順でやるということです。まず、 本当の「原価」とは何かを明らかにし、次の一手として原価管理システムを構築します。何よりも大切なことは正しい「管理技術」に気づくことです。この管理技術の一つが原価管理です。

開催日時	2024年5月23日(木) 9:00-16:00ライブ配信
JUAS研修分類	ビジネススキル(業種・業務知識)、共通業務(財務・税務・会計)
カテゴリー	IS導入(構築)・IS保守 <mark>専門スキル</mark>
講師	八木弘泰 氏 (株式会社管理技術ラボ 代表取締役) 中小企業診断士、特種,一種情報処理技術者。 富士通の SE として、製造業向けのシステム構築に17年間従事。 本邦初の生産管理パッケージ「MAPS-V1」を開発。2010年「管理技術」の製造業・農業他への普及、定着化のため、「管理技術ラボ」を設立し、「製造業の競争力強化」のため、超上流工程から定着化・効果測定まで「業務再構築」が実施できる「ASGUIDE」を開発し、事業展開を行っている。 注)「ASGUIDE」とは、業務再構築のため管理技術を駆使したコンセプト・メソッド・ツールを体系化した方法論
参加費	JUAS会員/ITC:35,200円 一般:45,100円(1名様あたり 消費税込み、テキスト込み)【受講権利枚数1枚】
会場	オンライン配信(指定会場はありません)
対象	原価管理の設計、保守、運用を担当されているSE 中級
開催形式	講義
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。 (2時間1ポイント)
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態

ライブ配信(Zoomミーティング)【セミナーのオンライン受講について 】

■テキスト

開催7日前を目途にマイページ掲載

■開催日までの課題事項

特になし

製造業向け収益向上のための原価管理システム構築

~ 「儲かる工場」の実現のために「管理技術」に気付く~

残念なことに「一生懸命に間違ったことをやる」ということが散見されます。

一番大事なことは正しい考え方・方法と手順でやるということです。

本セミナーは「儲かる工場」の実現に向けた仕組み、仕掛けを紹介します。

まず、 本当の「原価」とは何かを明らかにし、次の一手として原価管理システムを構築します。

何よりも大切なことは正しい「管理技術」に気づくことです。この管理技術の一つが原価管理です。

■主な内容

第1部 原価管理で利益を上げる

- 1. すべての企業で「原価計算」は実施
- それは、財務会計目的の「ドンブリ勘定」の原価計算です
- 2. 儲けるための原価計算は「製品別原価計算」
- 製品別とは、中間品目も部品も原価が計算できる仕組み
- 3. 原価計算は、単純な計算

- -材料費、労務費、経費の費目毎に「単価×数量」で求める
- 費目の設定で悩みます 目的を定め自由に費目設定する
- 化粧品会社は材料費を容器費・原料・副原料に費目を設定
- 4. 原価計算の概念図
- -一般の原価計算とABC原価
- 5. 実際原価計算のウソ
- コンピューータで正確に製品別実際原価表が計算されるが
- 6. 真の原価とは
- 本当の「製品の原価を知りたい!それは実際原価、標準原価
- 多くのトップは、「実際原価」を知りたい
- 7. 真の原価は標準原価
- 実際原価は製造都度変動、製造後確定する事後情報
- -標準原価とは、「正しい方法・手順」で製造された際の原価
- 8. 「正しい方法手順で制作された際の原価」が標準原価
- 歩留 0、操業度百%等々の理想原価ではなく、現行のレベルの生産技術等を加味し、かつ科学的に設定された原価
- 9. 正しい実際原価を求める解決策は 10. 原価管理とは
- 「基準・標準」の存在に対して、「実際」を把握し、「差異」を改善
- -原価は、前述の単価×数量ですから、単価差異+数量差異=原価差異
- さらに単価差異をドリリングして、操業度差異、予算差異等を把握改善
- 10. 原価管理は標準原価と実際原価で成り立つ
- 基準・標準の無い仕組に「管理は存在しない」=管理技術の基本
- 11. 何が何でも「標準原価」の仕組を作る。(部品・原材料)
- 一原価標準を設定する 13. 何が何でも「標準原価」の仕組を作る2(加工費=労務費+経費)
- -5%程度、「作業標準」を真面目に設定、他の品目はポイント法で設定

第2部 原価管理システム構築手順

- 1. 目的の選択
- ー財務会計に正しい原価を提供したい
- -特定の製品の実際原価を知りたい
- 商談毎の見積原価を算出したい
- 限界利益から製品のプロダクトミックスを
- 原価低減を継続的に実施したい
- 2. 原価計算の選択
- 商的工業会計
- ー特殊原価調査と原価計算制度
- 見積原価計算
- 直接原価計算と全部原価
- -標準原価と実際原価:原価管理
- 3. 原価管理の構築手順
- -目的の選択
- 原価低減を継続的に実施する
- 抜本的構築と暫時的構築
- 4. 設計項目と方法
- -費目の設計
- ー原価部門の設計
- ーチャージ計算
- -製造間接費の配賦基準
- -ABC原価
- 5. 定着化と管理職の役割

第3部 管理技術で利益を上げる

- 1. 管理技術による利益の獲得(利益率5割アップ
- 「管理技術による利益」
- -獲得される「利益項目」の説明
- 「業務再構築(BPR)」の目的は、「新たな利益の獲得」その一部が原価管理
- 2. 管理技術とは
- 業務知識ではない

- 「正しい考え方・正しい方法手順」が存在する
- 3. 業務毎の正しい方法手順とは-各業務の目的は何か
- 在庫管理:「在庫精度の維持」が目的…在庫低減ではない
- -工程管理:「作業指導」が目的
- 某社の工程管理のタブレット失敗例 製造業向け収益向上のための「原価管理システム構築手順セミナ」